

見て学ぶ 一般検査学アトラス 外観検査から顕微鏡検査まで

宿谷賢一(編)

国際医療福祉大大学院教授・臨床検査医学

下澤達雄

教科書に望むことが十分に満たされる本を見つけました

大学の教員として、学生、スタッフに、教科書もいいけど、「読むなら論文」と伝えてきました。教科書は査読がないので独りよがりの記述が入ります。また、書いてから時間がたつため最新の情報は含まれません。SNS など無料で手に入る情報が多くなった現在、アトラスのような図表はインスタグラムのような手軽なツールに置き換わるものと考えています。

それでも教科書が作られるのは、専門の分野に特化している論文に比べて「網羅性・わかりやすさ・教育支援」があることと、ケーススタディなどが含まれたものでは臨床応用ができるからです。SNS は、「体系的な学習」「深い理解のための解説」「長期的リソースとしての検索、安定性」といった点で書籍に劣る面があります。

学生の立場に立つと、教科書は授業や実習の補助・試験勉強・リファレンス・概念の理解、そして巻末にある問題などを使い自己評価をするのに活用できます。職場ではどのように使うかと考えると、図表は特に、卒後研修・患者教育・チームコミュニケーションに有効でしょう。

このような観点から小生はさまざまな教科書を見てきましたが、今回、宿谷賢一教授編による「見て学ぶ 一般検査学アトラス—外観検査から顕微鏡検査まで」は上述の教科書に求められる点をほぼ完璧にカバーしているもので、学生のみならず検査室、あるいは外来診療室に一冊置いておきたい教科書と思いました。図表は網羅的であり、代表的な写真が多く掲載されており、体系的に分類

されていて読者にわかりやすくまとめられています。索引もキーワードが細かく上げられ検索しやすいため、臨床現場で困ったときのレファレンスとして使いやすくまとめられています。また実習、講義ではレファレンスとしてだけではなく、その近辺にある図表をついでに見ることで知識を広げることが可能のように工夫されています。巻末には Web で写真を拡大参照できるクイズがあり、自己評価や試験対策に使えるものです。

解説は簡略で、忙しい合間でもエッセンスを取り込むことができます。患者指導に用いる際には専門用語をわかりやすく一般的な言葉に置き換える必要がありますが、写真はまさに百聞は一見に如かずで、患者の細胞の写真と本書にある写真を比べて見せることで患者は納得できるのではないのでしょうか？

宿谷教授の発見した尿細管再生にかかわる丸細胞について 25 ページに写真が出ていますが、まだ詳しい説明がなされていません。また、今後新規薬剤による薬剤性の細胞変化などの写真、解説が補遺として順次追加されていくと最新の情報も追加され、論文におとる教科書の欠点までもカバーできると期待される一冊です。



●B5/頁 240/2024 年
定価：5,940 円
(本体 5,400 円＋税 10%)
[ISBN978-4-260-05663-2]
医学書院 刊